

自 己 評 価 表

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校

学校番号 37

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点努力目標	基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成 —思いやる心 自律の心 挑戦する心— 『ものづくりから人づくり・夢づくり、信頼される学校づくり』 1 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進 2 一人一人を見つめた温かい生活指導の推進 3 個性豊かな人間性の育成と特別活動の充実 4 職業観・勤労観の育成と実践的キャリア教育の推進 5 地域を愛し行動できる人間の育成(ボランティア活動の推進)
------	---	--------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 校 経 営	教育活動の公開と情報発信	各種「たより」の家庭への持ち帰らせや掲示板への貼り出し、ホームページの内容を充実させることにより、教育活動の情報を発信する。	B	地域住民の方々からの評価は高い。各種「たより」を毎月遅れることなく家庭へ持ち帰らせ、掲示板への貼り出しもできている。ホームページの内容充実努力し、年間アクセス数も向上した。	保護者に毎月始めに「たより」が届くことを知っていただき、届かない場合は子どもに催促していただくよう今後とも願います。生徒には、保護者に必ず渡すように指導を継続していく。ホームページの内容充実今後とも努力する。
	保護者の意見反映	P T A総会や理事会、保護者懇談会への参加率向上を図り、保護者の意見・要望を把握して、学校改善に生かす。	B	P T A総会への出席率は37%で昨年度より向上した。保護者懇談会への出席率も昨年同様高い数値となった。	P T A役員の方々から各地区ごとにP T A総会への出席を促していただく。総会前の授業自主参観や、進路ガイダンスの機会を今後も設けたい。
	図書館環境の整備と充実	読書啓発活動を推進し、生徒希望図書の購入等により、図書館環境の整備に努め、年間一人当たりの図書貸出し冊数4.0冊を目指す。「図書館通信」を年10回発行する。	B	読書啓発活動を行い、図書の購入、「図書館通信」も例年通り発行した。しかし、年間一人当たりの図書貸出し冊数は目標値に達していない。(床改修工事による図書館閉館のため図書貸出冊数が減少した。)	朝読書の取組は、定着してきている。生徒の読書機会の増加につながるよう、委員会活動を活発に行い、今後も朝読書の在り方や、情報発信の方法等を検討し、継続的に読書啓発活動を行っていききたい。
学 習 指 導	教科指導の充実	生徒による授業評価をもとに教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。相互授業研修期間を含め、校外で一人年間5回以上、授業参観や教科の研修を行い、授業力向上に努める。	B	教育課程について、職員・保護者ともに一定の評価を得ている。授業改善については、年間相互授業研修参加回数は増え、授業の理解度(生徒による授業評価)は昨年度と同様だった。	教育課程については、新学習指導要領も踏まえ、今後も魅力あるものを検討していきたい。授業改善については、校内研修や教科会等の在り方を検討して、授業改善につながる学習評価となるよう努めたい。
	基礎学力の向上	定期的に家庭学習時間調査を行い、家庭と連携し、学習習慣の定着を図る。定期的実施しているエスタブリッシュメントテストの充実を図る。	B	平日1時間以上学習時間が確保できている生徒と、考査発表後長時間学習時間が確保できている生徒が増加している。その一方で、学習時間が30分未満の生徒も増えている。	エスタブリッシュメントテストの前日は学習時間が増えるなど、家庭学習時間の定着に効果が見られるので、今後も工夫を加えながら定着させたい。また、資格検定取得に向けた取組も、各教科と連携し継続したい。

工業	実践的技術者としての知識・技術	各種資格取得・検定試験合格個数(3年間)6個以上を目指す。ジュニアマイスターの認定(ゴールド・シルバー15人以上)を目指す。	A	本年度の資格取得数・検定試験合格個数は6.6であり、ジュニアマイスター顕彰の認定者数はゴールド28名、シルバー15名を達成した。	ジュニアマイスター顕彰制度は十分に生徒に周知され、資格取得に挑んでいるが、合格率は高くはない。合格率にも意識させるよう考えなければならない。
教育	ものづくりの推進	ものづくりコンテスト等での入賞を目指す。地域と連携しながら、校内外の「ものづくり」にかかわる行事に参加する。活動の成果に対し、達成感が得られるよう発表会を行う。	A	高校生ものづくりコンテストにおいて、旋盤部門と測量部門が全国大会に出場し、測量部門は全国3位、ロボットアメリカンフットボールは県大会初優勝をし全国大会で準優勝、溶接競技会でも全国大会に個人で出場、WROが国際大会で7位に入賞することができた。その他、ものづくり教室、科学の祭典、各種催しに積極的に参加し、成果を挙げた。	生徒はものづくりに対して積極的に取り組んでいる。本年度は各種大会で好成績を収めることができ満足できる結果であった。
特別	ボランティア活動の推進	各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えとともに意識の啓発にも努め意欲的な参加を目指す。	B	地域の児童との交流や独居老人宅への訪問等、定期的家庭クラブの取組や体育祭での保育園児の招待等で保護者や地域の方々からはいつも高評価を得ている。今年度は、7月の豪雨災害で南予地区は特に大きな被害があり、被災に対して積極的に活動した生徒が多くいたことは記しておきたい。	多忙な学校生活の中、自ら進んで時間を作り地域行事やボランティア活動に参加することはいろいろな制約がある。家庭クラブでの活動体験の感想を見るとそういった活動への生徒の関心は高いことがわかる。意識から行動へとつながるような具体的なアプローチを行っていくことが必要である。
	学校行事の充実	充実した生徒会の委員会を10回以上開催し、積極的に参加したくなるような学校行事にする。	B	休日開催のバラ展や工業祭、平日の体育祭には保護者の方々を含め多くの地域の方々にご来校いただき高評価をいただいている。生徒会執行部をはじめ専門委員会の活動も活発で生徒一人一人が積極的に取り組んでいる。	学校行事に対しては、外部からも高い評価をいただいております。生徒たちの活動が認められている証だと考える。生徒数が減少していくなかで生徒一人一人が主体的に取り組める委員会等の活動や行事への積極的な参加を目指していきたい。
活動	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。	B	今年度も全員の生徒が部活動に所属している。内訳は運動部143名、文化部94名(兼部者:16名)。レスリング部の総体13連覇をはじめ電気技術部の3年連続国際大会出場、機械土木研究部溶接班、測量班、工作班、ロボット班の全国大会出場など活発な活動が成果として現れている。	生徒数減少に伴う課題を精査し、小規模校での部活動のありかたを具体的に考えていく必要がある。併せて、「運動部活動のガイドライン」の趣旨を生かした本校の部活動の在り方についても明確な方針を策定することが乞金の喫緊の課題となる。
生徒	基本的な生活習慣の確立	保護者との連携を密にし、欠席・遅刻・早退ゼロを目指す。頭髪指導を徹底し、高校生らしい身だしなみを心がけさせる。	B	遅刻数は、1年15人24回、2年3人3回、3年4人4回である。1年生の遅刻数が多いが大半は通院、体調不良である。頭髪服装については、違反率は昨年とほぼ変わらず、校内での大きな乱れはなく一定の成果が見られる。	今後も、ホームルーム担任を中心とした個別指導と入室届けの徹底及び5分前登校の奨励を通して、生徒に自覚を促していきたい。また、家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣が身に付くよう保護者に協力をお願いしていきたい。
	指導	規範意識と社会性の醸成	B	挨拶は、一部気になる生徒はいるが、教職員・生徒の評価は高く、校内では良好である。校門指導、教科・部活動での指導の成果が現れていると考える。校外での挨拶や交通ルール・マナーについては、地域住民の評価が依然として低く、一部の生徒について十分な成果が現れていない。	非行防止教室、全校集会等での指導を通して、規範意識を高めていきたい。また、校門指導、登校指導を通して自主的なヘルメットの着用等の交通安全意識を高めたい。挨拶は、これまでの校門指導を中心とした挨拶運動を継続していきたい。

人 権	人権啓発の推進	「人権だより」や人権・同和教育ホームルーム活動などを通して、人権尊重の意識を高める。 内容の充実した「人権だより」を年10回発行する。	B	人権だよりの発行は予定通り達成できる。年3回のホームルーム活動や人権・同和教育講演会は、生徒の感想からも、人権意識の高揚に効果があったことがうかがえる。	人権委員会の活動機会を増やし、生徒の人権啓発につながるような活動を実施する。また、人権だよりの内容も、生徒の活動を多く取り入れ、生徒がより興味を持って読めるものに改善する。ホームルーム活動の内容についてもアップデートを図る。講演会の講師についても、生徒が学びたい分野の講師をお願いする。
	教育	いじめをなくする取組	C	いじめアンケートは予定通り2回実施した。2学期に若干発生したが、早期発見し解決することができた。教職員には概要についてすべて説明し、その後の経過観察を行っているが問題はない。その他、気になる生徒についての情報も共有し、教職員全員で様子を見ている。	アンケートの実施も大切であるが、日頃から教職員が生徒とかかわる機会を多く持つよう心掛け、些細なことも見逃さないよう啓発する。また、生徒に対しては、いじめはする側が100%悪いことであると認識させ、加害者にならないよう注意喚起する。
進 路	就職指導の充実	キャリア教育を充実させることにより、望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。	A	職場見学や応募前職場見学、マッチングフェア等の諸行事によって生徒の職業観や勤労観の育成を図ることができた。7月の豪雨災害により就職希望者の就職に対する準備が遅れるのではないかと心配もあったが3年担任の先生を中心によく指導していただいた。また、1次で不合格となった生徒もスムーズに決定し、早い段階で就職を希望する者全員が内定を得ることができたのはよかった。	学校から発信する進路情報だけでなく、地元周辺で開催される企業説明会や会社独自の見学会等への積極的な参加を促して更なる職業観、勤労観を育む。 基礎学力の必要性は求められるため、日々の学習活動の大切さと積み重ねの重要性を理解させ、学力の向上と定着を目指す。1回の受験で合格できることも大切であるが、就職後離職しないような指導を目指す。
	指導	進学指導の充実	A	各種模擬試験や計画的な補習等で、進学に対する意識付けができ、全員が第一希望の学校に合格することができた。オープンキャンパスには積極的に参加していたが専門学校については安易にAO入試に流れる傾向にもあり、志望校の研究をしっかりとさせる取組が必要であった。	校内での進学説明会だけでなくオープンキャンパス等を利用して、進学する意義や志望校の研究を十分に行う。 3年次には受験形態の多様化に対し正確な情報を提供し、本人に最も良い入試となるよう指導助言に努め、行きたい学校への合格を目指す。
学 校 保 健	健康管理と保健指導の充実	健康診断結果の的確な把握と適切な指導を行うとともに、具体的な指導を計画し基本的生活習慣の確立を図る。 「保健だより」を毎月1回発行する。	B	健康観察を継続し、欠席理由の把握、感染症予防の徹底を図るとともに、基本的生活習慣の確立を目指した。健康管理や衛生管理について情報を発信し、個人や集団への保健指導を行い、1・2学期中の出席停止者は減少した。	課題は冬の感染症予防である。引き続き基本的生活習慣の確立を目指し、生徒自らが考えて行動できるように、個別・集団の保健指導を充実させる。また、生徒保健委員会活動を通じた啓発活動について検討し、実践していきたい。
学 校 安 全	安全意識の向上	様々な非常変災に対応できるよう、避難訓練を年3回実施することにより、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。	B	本年度は（予告なしの防災訓練1回を含め）、4回防災訓練を実施した。生徒・教職員の安全に対する意識は向上してきている。	緊張感を持って訓練を実施することにより、今後とも生徒・教職員の防災に対する意識の向上を図る。
学 校 行 政	校舎・校庭・教室の環境	校舎や校庭・教室の美化・整理整頓に努める。	B	校舎内外の美化・整備に努めているが、予算が限られているため即時対応が難しい場合がある。	校内美化・環境維持管理の意識を持ち、教職員と協同して安全でより良い教育環境になるよう目指していきたい。
	丁寧な接遇の励行	丁寧な来客対応・電話対応に努める。	B	窓口での来客者への対応や電話対応等の達成率が上昇している。	教職員との情報の共有及び行事等を十分に把握することにより、窓口・電話対応をスムーズに行えるよう努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。